

PSB Computer Protection の Web コンテンツ制御について

PSB Computer Protection には Web コンテンツ制御が搭載されており、弊社オンラインデータベース(レピューテーション)に登録されているサイトの"カテゴリ情報"と、PSB ポータルにユーザー管理者が設定した"カテゴリ別アクセス拒否スイッチ"を照合し、サイトアクセス可否をコントロールします。サイト内のコンテンツ対し、ファイル形式をベースに該当コンテンツへのアクセスをコントロールする事も可能です。これらに加え、URL(DNS)ベースでの例外アクセス許可/拒否が可能です。URL ベースの例外アクセスは"拒否が優先"となります。

Web コンテンツ制御で Web サイトアクセスがブロックされた場合、下記の表示がなされます。下記の例では、「SNS」拒否が原因でこの Web サイトはブロックされました。



Web サイトをブロックしました

https://twitter.com

カテゴリで制限されているため、F-Secure Computer Protection Premium & Rapid Detection and Responseはこのコンテンツをブロックしました: SNS

 このコンピュータの Web サイトを許可する

[誤検知の Web サイトを通知する](#)

これを回避するには、PSB ポータルの Web コンテンツの設定で、「SNS」拒否を無効化するか、Web サイトの例外機能から、許可サイトにこの URL を登録(※)してください。



※「Web サイトの例外」を有効にし、「許可したサイト」に URL を入力します。



下部の「拒否したサイト」に親ドメインが含まれていると「拒否したサイト」のルールが優先され、「許可したサイト」で登録した URL へのアクセスが拒否されます。

Web サイトのカテゴリライズについて

弊社製品は公開レピュテーションデータベースを利用して、サイトカテゴリライズを行います。該当サイトがどのカテゴリに属するか？という情報は現在非公開となります。弊社サポートでご確認いただけます。

Web サイト内リダイレクト処理について

一部のサイトで Web サイトアクセス時にリダイレクト処理などが自動的に実行され、内部的に別の URL にアクセスが誘導される事があります。それらに関しては、弊社のコンテンツ制御のブロックページではブロックされた URL の採取ができず、空白のページなどが表示される場合があります。その場合、Web サイト運営者に、利用するドメインの一覧を確認頂く必要があります。

弊社製品のデバッグレベルログをご採取いただくと、ブロックされた URL が採取できます。サイト運営者から該当情報を提供いただけない場合、この機能をご利用いただき、ブロック URL の確認(※)をサポートまでご依頼ください。

※特定サイト内の詳細な情報について、f-Secure ではその調査や正確性を保証しません。

※デバッグレベルログの有効化方法

<https://community.f-secure.com/common-business-ja/kb/articles/6220>

有効化した後に該当サイトへアクセスを実施し、事象を再現してください。その後、デバッグレベルログを無効化します。

サードパーティの Web コンテンツ制御をご利用の場合

他社の web コンテンツ制御ソフト(i-Filter 等)をご利用の場合、弊社の web コンテンツ制御を機能衝突を起こす可能性があります。弊社製品の Web コンテンツ制御については無効化をお願いいたします。

Office365 への影響

Office365 の認証通信が弊社製品インストール後に稼働しないというケースが報告されております。Office365 の場合、下記のサブドメインへの Http アクセスが発生し、それら「Web メール」にカテゴリ化される通信を行います。そのため、「Web メール」カテゴリが拒否されている場合、Office365 が正常かどうしません。このカテゴリを許可するか、下記 URL を「許可するサイト」追加する事が必要です。

<https://odc.officeapps.live.com>

<https://login.live.com>

<https://ocws.officeapps.live.com>

<https://nexusrules.officeapps.live.com>

<https://dataservice.protection.outlook.com>

<https://roaming.officeapps.live.com>

<https://outlook.office365.com>

<https://autodiscover-s.outlook.com>

<https://cdn.uci.officeapps.live.com>

<https://ols.officeapps.live.com>

※弊社では当情報を保証しません。Microsoft ナレッジを参照し最新情報を入手してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/office/troubleshoot/activation/issue-when-activate-office-from-office-365>

Cmd.exe の起動について

コンテンツ制御を含むブラウジング保護機能は cmd.exe を利用しており、ブラウザからの cmd.exe 実行を許可する必要があります。intune や ActiveDirectory 等でのブラウザ集中管理を行っている場合に、cmd.exe 起動ブロックが有効になっているケースが報告されております。

SSL 証明のダウンロードについて

「ソフトウェア ダウンロード」の拒否により SSL 証明のダウンロードが阻害される可能性があります。